

おらがまち

こまがた地域協議会

平成16年に設立され、駒形地区の環境保全や地域活性化などの活動を行っているこまがた地域協議会。昨年、地区の史跡をめぐるまちあるきイベントを開催したのをきっかけに、今年2月には名所や史跡をまとめたガイドブック「駒形物語」を作成し、地区住民に配布するなど、地域の歴史や魅力を伝える活動に取り組んでいます。



こまがた地域協議会
えんどう こうさく
遠藤 幸作 会長



知るたびに、このまちを好きになる

——ガイドブック作成に至った経緯を教えてください

昨年の夏と秋に地区住民を対象にまちあるきイベントを開催したことがきっかけです。

開催に向けて地域の歴史に詳しい方から話を聞いたり、資料を参考にしながら調査を進めていく中で多くの発見がありました。例えば、八面集落にある石碑「立石」は、天保の大飢饉（1833年）の際に飢えや病気で亡くなった方の供養のために建てられたものです。物心ついた時から見慣れていた石に、そのような背景があると知った時には驚きました。その他にも、七株田周辺は明治時代にリング栽培を始めたとも言われており、現在の駒形地区の特産品につながる歴史があります。

身近な風景の中にも、誇れる歴史があります。

史が数多く残されていることを実感し、より多くの住民にも地区の魅力をあらためて知ってもらいたいと思ったことから、ガイドブックを作成しました。

——今回の取り組みで周りからの反響はいかがですか？

まちあるきイベントには、小学生から70代まで幅広い年代の方が参加し、「地域の魅力を改めて知ることができて良かった」と喜びの声もいただきました。

また、新聞に取り上げられたことで、駒形地区の関係者だけでなく、この取り組みや地区の歴史に興味を持った多くの方からも「ガイドブックが欲しい」と問い合わせをいただき「そこまで反響があるとは」と私たちも驚きました。さまざまな方に駒形の歴史や自然に興味を持ってもらえて、本当に良かったと感じています。

——協議会として今後はどのようなことに力を入れていきたいと考えていますか？

協議会では、毎年大滝沢トレッキングやホテル鑑賞会などさまざまなイベントを行っています。小・中学校の統廃合などもあり



▲昨年7月に行われたまちあるきイベント



駒形地区には多くの名所や史跡があり、ガイドブック「駒形物語」では協議会が選定した23カ所が解説とともに紹介されています。

地区内のつながりが少なくなっている中で、こうしたイベントをこれからも継続し、住民同士がつながる機会を作っていきたいと思っています。

駒形地区には、誰かが困っていれば自然と助け合う風土があると私自身感じています。今回のガイドブックの作成はまさに、多くの地区住民や関係者の皆さんの協力のおかげで完成しました。これから人と人のつながりを大切に、「駒形つてすいな」と、さらに愛着を持ってもらえるような活動を続けていきたいですね。